県教研に参加された先生方の授業実践

１年「われら　みしま　たんけんたい」　　三島小学校　　羽根渕　佑美

○実践

＜先生にインタビューする子どもたち＞

小学校に入学した子どもたちは教室移動のときや下校のときには「先生これ何」「どうやって使うの」と初めて見るものに興味をもっていたが、学校内での行動範囲は限られていた。そこで学校探検活動を行い、学校の施設や様子、学校を支えている人々のことを知ることにした。子どもたちのこれからの学校生活をより豊かにするとともに、意欲的に学校生活を送ることができる子どもを育てたいと考え、本単元を設定した。導入で２年生に学校探検ツアーガイドをしてもらい、１年生の子どもたちは繰り返し学校探検活動を行った。「お気に入りを探す」「先生を探す」等の視点を設け、意欲の持続と気付きの質の高まりを図った。子どもたちは探検で見つけたものや先生について発表する中で、「なぜ配膳室は全部の階にあるのか」「先生はなぜ授業以外の仕事をしているのか」などの新たな疑問をもったため、話し合いを行った。その結果、先生へのインタビューも行い、たくさんの人に支えられて学校生活が成り立っていることに気付いていった。

○成果

探検の視点を設け繰り返し活動を行ったことで、行く度に違う気付きがあり、子どもが「次はいつ探検に行くの」と探検に意欲的に取り組む姿が見られた。そうすることで子どもたちの気付きの質が高まり、発表の際に新たな疑問を生むことができた。その中で行った先生へのインタビューでは、さまざまな仕事をしている先生がいることを知ることができた。実践を通して子どもたちは学校のたくさんのものや人と関わりを広げ、楽しく意欲的に学校生活を送る姿が見られるようになった。

２年「やさいをそだてよう」　　岡崎小学校　　山内　美保

○実践

＜野菜情報＞

１年生のときにアサガオの栽培で使った鉢で野菜の栽培をする実践を行った。子どもたちは、教師が教えたことを素直に努力できる一方で、初めて体験することになると指示を待ってしまうところがあった。そこで今回は、いかに子どもたちが自分なりに野菜を栽培するのに必要な情報を与え、主体的に栽培活動に取り組むことができるようにするかを考え、実践を行った。

育てる野菜は、自分で決め、どんなふうに育てたいか目標を決め、家庭の協力を得て自分で野菜の苗を購入するようにした。また、初めての野菜の栽培でも活動の見通しがもてるように栽培計画表を書いた。さらに、野菜を育てる中での自分の思いや気付きを「はてな（分からないこと）」「こまった（心配・不安なこと）」「わかった（分かったこと・調べたこと）」の３つの場所と色に分けて「野菜情報」という掲示板に自由に付箋に書いて貼れるようにした。掲示板に心配や不安の情報が増えたときには、「野菜情報発表会」として、困っていることなどをみんなで話し合えるようにした。活動の後には、野菜を育てる自分についてきちんと振り返りができるようにプリントを用意して振り返る場を設定した。

○成果

栽培計画表を書くことで、「水やり」しか知らないことに気付いた子どもたちは、家族に聞いたり、本やインターネットで調べてもらったりしながら、先の活動を見通し、教師が言わなくても次の活動につなげることができた。また、「野菜情報」の掲示板の中で困ったことにアドバイスをする付箋が貼られるなど、掲示板の中でも子どもたちの関わりが生まれ、野菜情報発表会とうまくつながって、子どもたちの野菜についての思考をより深めることができた。